

平成30年度 生涯学習・社会教育関係職員研修講座

「中南地区研修」

平成30年6月21日(木) 会場(黒石市産業会館 大会議室)
受講者数 62名

平成30年度生涯学習・社会教育関係職員研修講座における「中南地区研修」を6月21日(木)に黒石市産業会館で実施しました。中南地区では各市町村の社会教育委員の方々にも参加いただいている研修会で、今回は「人間が生きることと教育の本当の意味を問い直す」をテーマとしました。

講師には、テレビ出演もされている恐山菩提寺 院代 南 直哉 氏をお招きして、「生きることと教育の本当の意味とは」と題し、御講義をいただきました。

また、午後は、「生きることと教育について」意見交換を行いました。午前中の講義内容について、受講者同士感想や質問してみたいことなどを話し合い、その後、南氏へ質問してお応えいただいたり、感想を述べたりする形で進めました。

【講師：南 直哉 氏】



【午前中の講義の様子】



1. 講義「生きることと教育の本当の意味とは」 講師：恐山菩提寺 院代 南 直哉 氏

【概要】

「永平寺での20年間の修行を含め、人生の岐路で感じたこと。」

- ・「所詮大事は1つも無し」・・・「自分の意思で決められるようなことは所詮些事」(本当に人生を左右するような大変なことは、自分の意思とは関係なく別の力が働き、それで決まる。)ということ。
- ・人間の死ぬほどの苦しみは1つしかない。それは「人間関係」である。人間は「人間関係」の中で孤立したときに死ぬ。永平寺には人間関係を拗らせる3つの要因が無かった。
- ・「人間関係を決定的に拗らせる3つの要因」
① 金 ② 異性関係 ③ 地位・名誉・・・永平寺にはこの3つが無いため20年もいることができた。
- ・「人間の集団のある所は、どんな集団でも同じような構成できている。」

集団の上位10%はその組織に是非とも無くてはならない人達。下位10%はあまり必要とされていない人達できている。真ん中の80%の人達はその中間に位置する人達で構成されている。不思議なことに上位10%が居なくなると上澄みのように上位10%の人達が出てくる。同じように下位10%を切るとまるで澱が溜まるように下位10%が出てくる。

この配分は不思議なことにどの組織でもほとんど変わらない。また、「年功序列の社会」は発展したり、進歩したりする必要のない集団には最も安定した効率のいい社会である。高度経済成長の時期は「年功序列」で良かった。「年功序列」の最大の問題は、トップがだめなら下全部がだめであるということ。

- ・「自分のテーマを見つけられない人間は際限なく墮落する」

永平寺の最初の3年間は楽だった。人から指図を受けたり、叱られたりしている時期は楽だった。永平寺では3

年経つとももの見事に誰も何も言わなくなる。そこから、やっていることはこれまでと変わらないのだが、「何をしたいのか。何を修行したいのか。」自分のテーマを持って取り組まなければ際限なく墮落していく世界である。自らの課題を設定できない人間は永平寺での修行は進まない。

・「死ぬ」ということを考える時に一番大事なこと

「死」「死者」「遺体」「死体」この4つを区別して考えなければならない。

物体として数えられる「死体」が、社会関係の中に戻り誰その人格をもつと「遺体」になり、埋葬した瞬間に「死者としてリアルな存在になる。

葬式は「死んだ」と確定させることであり、^{とむら}弔いは「死者」と縁を結び直すことである。

・長生きする人になるために

長生きするためには「自分で決めた日課を繰り返すことができるか。」が大事である。

健康で、節制ができて、人の縁が厚い人が長生きをすることが多いが、そのためにはかなりの努力が必要になる。60歳を過ぎたら他人を先に立てて、損得勘定で生きないなど「自分はいらない人」くらいに思って生きた方が楽。

・「恐山」には死者がいる。だから人々が集まる

「忘れられない人＝自分に生きる意味と価値を与えてくれた人」が恐山にはいる。だから人々は集まる。

ただ、誰も「死者」になれるものではない。「人は死ぬと愛したものの所へ行く」

2. 意見交換「生きることと教育について」

受講者同士が話し合った後、「親としての在り方について」という質問に対して、南氏は、永平寺にいた頃に、両親の不仲が原因でリストカットを繰り返していた女学生から相談を受けた時のことを例に、「親としての在り方」を次のように述べられました。

「人間は自分の生きる意味と価値を自ら見つけ出すのではなく、他人から教わる。最も近くにいる他人が親である。」
「あなたがそこに居るだけでうれしい。」と無条件に言えるのが本当の親。「産んだ人ではなく、それを言える人が親である。」と話されました。

また、「仙台近郊の人達は、一生に一度は恐山参りをすることを盛んに話されているが、それはなぜでしょう。」という質問には、「東北部には、『死ぬばお山に行く』という信仰があった。そこは昔から地震や津波が頻繁に起こっていて、そのたびに多くの方が亡くなった。『死ぬばお山に行く、お山に行けば会えるんだよ』という信仰が広がったからではないか。」と応えました。他にもたくさんの質問が出ましたが、南氏は御自分の経験をもとに受講者に対し一つ一つ丁寧に質問に答えてくださいました。

【参加者の話し合いの様子】



【南氏へ質問する受講者】



【質問に答える南氏】



3. 受講者の感想

- ・生きること、死について、日頃疑問に感じていたことや現在の社会活動について、今後の良き指針となりました。
- ・生きることに疲れた方々にも聞いていただきたい内容でした。欲を捨て、人のために役立つ人間になれるよう努力して過ごせたら、すばらしい人生になると思いました。
- ・今日のお話は、「生きるということと死ということが別のものではない。」ということが参考になりました。生き方の先に死があるのだと、常々思って生きています。